

「リエゾンシニア」が、中小企業経営者の分身的存在として大活躍!①

■今、「リエゾンシニア」に視線が注がれている

「リエゾン」とは連絡・連携・橋渡しを意味するフランス語であり、大規模災害発生時に、中央官庁と災害現場を繋ぐ役割を果たす「連絡員」という使われ方もある。

とかく「働かないオジサン」と揶揄されがちな中高年社員であるが、定年後研究所は、豊かな人生経験・職業体験で培われた人間力や洞察力を武器に、「本来なら分離しがちなファクター(要素)」を繋ぎ合わせることで大きな役割を果たしているシニア人材「リエゾンシニア」に注目している。

■「広報戦略は経営の要」と語るリエゾンシニアのキャリアとは

「リエゾンシニア」の1人、左近充ひとみさんのキャリア人生は、決して平坦なものではなかった。「メディアプランナー」を志し、米国留学したものの、就職浪人を経験した後も、希望どおりのキャリアを歩むことは叶わなかった。出産・育児も経験しながら、夢を捨てずにPR代理店や広告代理店でキャリアを切り開き、徐々に「広報のプロ人材」として外資系企業等で頭角を現し、50代では神奈川県横浜市の広報責任者として、「横浜市のPR活動」の活性化に尽力した。

現在は、神奈川県藤沢市を拠点に、パソナJOB HUBの「顧問登録者」として、企業や大学の広報支援等に力を入れている。そんな左近充さんは「広報は経営戦略の要」であり「PR業務を通じて様々な経験を積み、分野横断的に物事や人材を繋ぎ合わせるコーディネート力が備わった」と語る。



左近充ひとみさん

■そんな彼女に白羽の矢を立てた 広島県の経営者

広島県広島市に本社を構える株式会社レスコは、「精神科病院向け電子カルテシステム」を提供する従業員約70名の地場企業である。大手電子機器メーカーから11年前に転職し、代表取締役就任して5年になる藤川佳應さんは、経営戦略をこう語る。「経営とは有言実行だと思っ

ています。当社はこれまで精神科病院にフォーカスしていましたが、今後の成長戦略として、精神疾患の予防分野への展開にも注力していきます。そのため、東京の中央官庁や、広く消費者を意識した情報発信を行いたいと考え、そこを担える人材を探していました」

広島県の藤川社長と、藤沢の左近充さんを繋いだものとは何か、そこではどんな化学反応が起きたのか、次号で紹介したい。

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所理事長
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星とビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。

当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問合せ」に寄せください。